



市民 登場

No.742

世界と戦う大学生バレーボーラー

大塚 達宣さん

◆おつかたつのもり 2020東京オリンピック日本代表選手に選出され、今年1月にはパナソニックパンサーズへ入団した。ポジションはアウトサイドヒッター。早稲田大学3年。中宮中学校出身。須山町在住。21歳。

オリンピックデビューは昨年7月のイタリア戦。劣勢での途中出場に「自分が流れを変える。思い切ったプレーをしよう」と奮い立った。7位に終わった最終成績には「海外選手の身体能力に勝つためにパリ五輪には前より質が高い自分に持っていきたい」と意気込む。

バレーボールとの出会いは小学3年生。小・中学生時代はパンサーズジュニアでプレーし全国大会優勝を経験、春高バレーでは最優秀選手に選ばれるなど豊富な実績を持つ。スパイカー筋の競技人生で大事にしてきたのは仲間とのコミュニケーションだ。「ここ1本取ろう!」。試合中にチームを盛り上げる声掛けから日常の雑談まで、とにかくよく話し、よく聞く。「しゃべらないとどんな考えを持っているか分からない。自分をどんどん発信するし、相手のことも知りたい」。社交的な性格は競技とひ

たむきに向き合って形作られたもの。「積み上げた信頼関係はワンプレーに出ます。みんなが必死につないだボールが最後に集まるポジションだから心を込めて打ちたいんです」。パナソニックパンサーズへ入団後は早々にスタメン入りを果たす。地元へ帰ったきた新人へ周囲の期待は膨らむ一方だが「自分の考えを発信してチームになじみ、点を取るためにできる準備をして毎試合臨むだけ」と本人はいたって冷静だ。

セカンドキャリアに思い描くのは体育教師。大学では教員免許取得に向けて励んでいる。「スポーツはとても楽しいもの。小さいころに嫌な印象を抱くと大きくなっても敬遠してしまうので、子どもたちに直接伝えていきたい」。世界を見据えて戦い続けるその体験を子どもたちに語る未来がとても待ち遠しい。



夜桜の咲くこの場所で

今月号の表紙写真は、岡手町在住の福島隆さん（53歳）が令和3年3月に百済王神社で撮影。「日の暮れを待っての撮影。娘たちの入園入学時には隣接する百済寺跡公園の桜と写真を撮っていましたが、今回は鳥居と夜桜を一緒に撮影。時は流れますが桜の美しさは変わりませんね」。



自慢の写真が表紙になるかも!?

枚方の魅力を再発見できる風景写真を大募集。街中もOK。▶応募 電子メールに住所・氏名（ペンネーム希望の場合はペンネームも）・年齢・電話番号・電子メールアドレス、写真の説明を書いて写真データを添付し広報プロモーション課（kouhou@city.hirakata.osaka.jp）へ。

※応募作品は市公式のフェイスブックやインスタグラムで公開します。